

第13回 人権フォーラム2013 in 群馬

# ハンセン病問題に関する シンポジウム

沖縄の子どもたちが演ずる感動作



演劇「光の扉を開けて」  
沖縄からのメッセージ

ハンセン病  
のこと

エイズ  
のこと

共に生きる  
ということ

2013  
10/26 土

開場13:00 / 開演13:30~16:40

## ベイシア文化ホール

(群馬県民会館) 小ホール 前橋市日吉町1-10-1  
tel.027-232-1111

予約不要。どなたでも入場できます。団体での入場はお問合せください。



- お問合せ先 / ハンセン病問題に関するシンポジウム事務局 [株]セブンスサービス企画装飾 北関東営業所  
TEL.050(3541)5380 FAX.027(373)9477 ※平日9:00~17:00(12:00~13:00を除く) e-mail/kitakan@sevenseservice.co.jp]
- 主催 / 厚生労働省、法務省、群馬県、草津町、全国人権擁護委員連合会
- 共催 / 国立療養所栗生楽泉園、栗生楽泉園入所者自治会、前橋地方法務局、群馬県人権擁護委員連合会、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会、ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会、日本科学技術振興財団、NPO法人HIV人権ネットワーク沖縄
- 後援 / 文部科学省、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、産経新聞社、NHK、前橋市、群馬県教育委員会、沖縄県教育委員会、前橋市教育委員会、草津町教育委員会、那覇市教育委員会、群馬県私立中学高等学校協会、(一社)群馬県専修学校各種学校連合会、上毛新聞社、群馬テレビ、エフエム群馬、日本皮膚科学会、日本ハンセン病学会、エイズ予防財団、栗生楽泉園とまちの明日を創る会、ハンセン病市民学会(一部申請中)

# ハンセン病問題に関するシンポジウム

## ● 目的 ●

ハンセン病やエイズなどの人権について、シンポジウムや演劇を通して学び、差別や偏見を乗り越え、すべての人が「共に生きる」ための、より良い社会づくりに貢献することを目的とします。

## ● プログラム ●

- オープニング      ■ 合唱／ともに生きる会（群馬・ハンセン病訴訟を支援しともに生きる会）  
地元高等学校による合唱（調整中）

- 主催者代表あいさつ      ■ 厚生労働省、法務省、群馬県、草津町

- シンポジウム      ■ 司 会／宮坂 道夫（新潟大学医学部教授）  
■ パネリスト／筈 雄二（国立療養所栗生楽泉園入所者自治会副会長）  
山形 弘喜（国立療養所栗生楽泉園退所者）  
安部 美冴（高崎健康福祉大学健康福祉学部社会福祉学科3年）

- 演 劇      ■ 「光の扉を開けて」／沖縄の子どもたちが演ずる感動作



- フィナーレ      ■ 大合唱／「世界に一つだけの花」  
出席された皆様も一緒に歌ってプログラムを盛り上げましょう。

## ● 前回来場者の声 ●

2013年2月に開催された[人権フォーラム2013 in 鹿児島]

来場されたお客様からたくさんの感動の声が寄せられました。

- シンポジウムでの元患者のことば、演劇…どちらも涙がとまりませんでした。これからも多くの人がハンセン病、HIV、その他の人権問題について考えていかなければならないと感じました。(25才女性)
- シンポジウムの、そして子供たちの演技に感動しました！若い世代が差別や偏見について考え、行動していることを心強く感じ、自分自身の考えや行動を振り返る良いきっかけになりました。(33才女性)
- 演劇がすばらしかったです。感動して涙がでてきました。皆さん演技が上手で強く伝わってきました。本当に有難うございました。これからもがんばってください。(中学生女子)
- とてもすばらしい内容だったと思います。演劇をみていて自分自身のありかたを考えさせられました。(50才女性)
- 演劇に感動しました。多くの県民に見てもらいたい。心洗われるようだった。(64才男性)
- 本当に素晴らしい催しでした。一生で最高に心に響くものでした。(68才男性)